

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方針	学校関係者評価書	学校関係者評価	
確かな学力	A	問題を見出し、解決するための思考力・判断力・表現力等を育成し、生涯にわたって学ぶ力を育てる	「理科する心」を育てる理科教育の推進 問題解決に向けて意欲的に思考する授業づくり	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	1学期集中授業研究の実施 単元末思考力問題の作成 理科実験観察講座の定期実施	授業研究の実施状況 3年以上で学期に1単元の単元末思考力問題の作成	・1学期に全学年の授業研究を実施し、2学期の公開授業に活かした。 ・3～6年理科思考力問題が計画どおり作成できた。	・さらなる学力向上・思考力向上に向けて、理科の授業改善を他教科にも広げ、問題解決型の授業づくりを進める。	①理科教育に取り組む中で、その手法が他の教科にも広がり、児童に考える力の向上が見られる。 ②学校のおかれた位置をうまく利用して、授業の公開により、より高い授業を目指し、研究している。 ③通知表での家庭学習が、少し目標より下回っているものの、おおむね目標は達成している。 ④ノートづくりの向上が予習・復習への意欲につながっている。児童がいきいきと学んでいる。 ⑤保護者の意識が高く、学校への信頼と支援が得られている。	A
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	理科ノートの手引きを使った問題解決学習の徹底 理科日記ループリック評価による思考力の検証	学校評価アンケート「授業がわかる」肯定評価90%以上	・学校評価アンケート「授業がわかる」89.6%(－2ポイント) ・7月と11月の比較では、分からない回答が国語で1名増、算数では3名減で算数での改善傾向がみられた。	・理科ノートの手引きにつづき、算数・国語でもノートの有効な活用方法を児童と共通理解して取り組む。 ・ノートコンテストの方法を検討し、児童が意欲的に取り組めるようにする。		
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	家庭学習を全校統一内容と発達段階に応じた内容とで一定量を決定し、全校共通理解して取り組む。「家庭学習の手引き」を活用する。	通知表「生活のようす」で家庭学習ががんばろう評価児童を全校で10人以下にする。	・1学期末で17人。 ・2学期末で15人。 減少傾向にあるが、目標値には達していない。	・各学年の家庭学習の内容を年度当初に共通理解するとともに、発達段階に応じたポイントを整理して取り組む。 ・上級生には予習につながる方策を検討する。		
豊かな心	B	他者や社会、自然環境と共に生きる豊かな心を育てる	「感謝」と「協力」の心育て 道徳授業の充実 読書活動の推進 よさを認め合う関係づくり	児童の企画委員会のアイデアを活かして「ありがとうメッセージ」の日々の取組を活性化する。 学期末に全校で家族・地域・先生に「ありがとうの手紙」を届ける。 読書環境を整え、「親子読書」に継続して取り組む。	香美市児童実態調査「自分にはよいところがある」肯定評価5年6年を70%以上にする。 読書目標冊数の達成率全校平均を50%から60%に上げる。	・キャリア形成に関するアンケート結果で「自分にはよいところがある」5年と6年平均が58.6%まで伸びてきた。 ・「自分を大切に思える」が82.8% ・読書目標冊数達成率全校平均値は4～11月で月平均59.3%とほぼ目標値となった。	・正しい自己理解につながる、学校生活の日常的な取り組みを見直し、新たな方策を検討する。 ・さらに豊かな読書体験を重ねることによって、読書習慣の確立をめざす。	①「自分にはよいところがある」の目標70%に対して、59%とあと少であった。 ②「自分を大切に思える」の評価が83%達成するなど、地道な教育の成果が表れている。 ③学校行事や地域との連携を積極的に推進し、心豊かな人間を育てる教育を行っている。 ④自然に恵まれた片地ならではの、物部川祭りやわかかし祭りでの大活躍は子どもたちの自信に繋がると思う。 ⑤読書習慣が身に付くことにより、心の成長にも繋がっていく。まず、読むことが好きになっていくことが望ましい。図書支援員配置の成果も出て、目標冊数をほぼ達成できている。 ⑥来年度も継続し、NIEや図書の活用により、読書意欲を一層高める努力を望みたい。	A	
				低・中・高での合同体育授業を基本とし、複数指導体制で運動意欲を高める。 体育授業や集会で一定のストレッチ運動を継続して取り組む。 生活リズムチェックカードの定期実施(5月・9月・11月) 体力テストの「長座体前屈」「反復横跳び」定期的な測定(5月・7月・9月・11月・1月・3月)	体育アンケート「体育で体を動かす」とても気持ちが良い」の肯定評価5年と6年を67%から10%上げる。 体力テスト「長座体前屈」を4cm「反復横跳び」を2回どの学年も全国平均より上げる。	・体育アンケート結果「体育で体を動かす」とても気持ちが良い」5・6年7月73.5%、12月64.7% ・体力テスト「長座体前屈」結果→1年、3年女、5年男、6年女達成「反復横跳び」結果→5年女を除く全学年で達成	・砂場、運動具をさらに整備し、運動環境を整える。 ・体力テストの内容項目のなかで、弱点2つに絞られ、児童に弱点克服の意識を持たせながら、継続して取り組む。			
健やかな体	B	心身共に健康で、たくましく、安全に留意して意欲的に運動する力を育てる	基本的な生活習慣の確立 運動習慣の定着と体力の向上	低・中・高での合同体育授業を基本とし、複数指導体制で運動意欲を高める。 体育授業や集会で一定のストレッチ運動を継続して取り組む。 生活リズムチェックカードの定期実施(5月・9月・11月) 体力テストの「長座体前屈」「反復横跳び」定期的な測定(5月・7月・9月・11月・1月・3月)	体育アンケート「体育で体を動かす」とても気持ちが良い」の肯定評価5年と6年を67%から10%上げる。 体力テスト「長座体前屈」を4cm「反復横跳び」を2回どの学年も全国平均より上げる。	・体育アンケート結果「体育で体を動かす」とても気持ちが良い」5・6年7月73.5%、12月64.7% ・体力テスト「長座体前屈」結果→1年、3年女、5年男、6年女達成「反復横跳び」結果→5年女を除く全学年で達成	・砂場、運動具をさらに整備し、運動環境を整える。 ・体力テストの内容項目のなかで、弱点2つに絞られ、児童に弱点克服の意識を持たせながら、継続して取り組む。	①計画的な活動ができている。目標まであと一歩までできている。 ②体力テスト結果も「長座体前屈」「反復横跳び」の一部クラスを除いて、他は全国平均を上回っている。 ③健やかな体づくりに欠かせないのが「食育」。保護者と連携して毎日の朝食の献立や質について、本格的に取り組んでいただきたい。	B	
保護者地域との連携	A	信頼される開かれた学校づくり	保護者や地域とのつながりを確立する 学校教育への関心を高め、健全育成、学校の課題解決への協働的支持的風土を構築する	生活科や総合的な学習、学校行事等で高知工科大学との連携をさらに拡大する。 佐岡小学校の施設を活用して、佐岡地区の地域の皆さんに児童の活動を公開したり、交流活動を実施する。 学校の環境整備に関わってくださるボランティアを組織する。	高知工科大学との連携の状況 「若あゆ会」保護者参加数を来賓参加数より上回る 「ボランティア片地」のメンバー増 保護者の学校評価アンケート「学校生活満足度」肯定評価90%以上	・高知工科大学学校サポーター10人。 ・「若あゆ会」は開催時期の問題もあり参加数が増えなかったが、「ふれ愛かたじけなく」には地域から多くの参加があった。 ・「ボランティア片地」は佐岡地区からも増えた。 ・保護者学校評価アンケート満足度→93.9%これまでの最高値となった。	・キャリア教育の視点を保護者・地域と共有する場を持ち、学校と家庭・地域が連携して、一人ひとりの児童の育成に関わる風土をつくりだす。 ・学校地域支援本部コーディネーターの積極的に運用し、誰もが「自分ごと」の学校づくりを進める。	①各月、学校校区内の全家庭への回覧チラシの実施など、情報発信に努力している。 ②各学期に、関係の民生・児童委員・主任児童委員15名・市の保健士、教職員とで心配な児童や家庭に関する情報交換会の実施など、地域と連携を進めている。 ③工科大生も含め、多くの読み聞かせや農業体験、240kgの餅つき振る舞い、皿鉢料理、毎日3名以上の交通安全指導、野球など地域との関係は進んでいる。	S	
キャリア教育	B	目標をもって、前向きに全力で取り組む力を育てる	自分で考え、問題を解決する自立のための生活習慣を身につける 人とのつながりから学ぶ態度を身につける	理科の授業を中心に問題解決学習を定着させ、自分で考え解決する習慣と他者の意見から学ぶ習慣づくりをする。 生活リズムチェックカードに保護者と協働して取り組む。 縦割り班での清掃活動で「無言・すみずみ・時間いっぱい」を徹底し、みんなで学校を美しくする。 教育活動全般を通して、体験活動やさまざまな人との出会いの後必ず振り返りを書く。	理科アンケート「考えながら学習」「自分の力で解決」肯定評価の向上。 生活リズム名人が全校の50%に近づく。(昨年度32～38%) 通知表「生活のようす」で「そうじ」「係の仕事」ががんばろう評価を0に近づける。	・理科アンケート肯定評価「考えながら学習」→85% 「自分の力で解決」→79% ・生活リズム名人5月→51.7%、9月→40% ・通知表「生活のようす」が「そうじ」7月→3人、12月→2人 「係の仕事」7月→0人、12月→1人	・日々の授業の中で自分で「やりとげる力」と協働して取り組む態度を育てる工夫を確認する。 ・生活習慣のさらなる定着のために生活リズムチェックを一工夫する。 ・一人ひとりの「そうじ力」の育成のために企業の出前講座を活用する。	①自分で考え、問題を解決する習慣が身に付くことを目標に努力した結果、「考えながら学習」85%、「自分の力で解決」79%と達成している。 ②工科大との連携により、多角的な教育活動の展開が見られ、将来に役立つ恵まれた取り組みだと思える。 ③縦割り班での清掃活動がとてよい。「無言・すみずみ・時間いっぱい」 ④生活リズム名人が、1学期より2学期が下回ったのはなぜか？3学期に期待したい。 ⑤教職員の心身の健康保持、負担軽減を図るための業務内容の精選と人員の適正配置が必要。 ⑥ゆとりを持って教育活動に取り組むことができる環境を整備する。 ⑦社会の変化に的確に対応していく能力の育成。(小学生の行方不明事件、スマホの利用など) ⑧全体を通して、常に目標を定め、それに向かって努力していることは評価できる。	A	